



SDGsってなに？

皆さんは、亀岡のまちなかで、上着の襟元にカラフルな円形のピンバッジ（写真）を付けた人を見かけたことはありますか。これはSDGs（エス・ディー・ジーズ）をイメージして作られたピンバッジです。

SDGsとは、2015年9月に米国・ニューヨークの国連本部に集まった世界のリーダーたちによって決められた「持続可能な開発目標



従来の金属製に加え、最近では間伐材で作られたピンバッジ（手前）も販売されている

（SDGs）」と呼ばれる世界共通の目標です。SDGsには、「貧困をなくそう（ゴール1）」や「海の豊かさを守ろう（ゴール14）」といった17のゴールが掲げられています。SDGsの達成期限は2030年に設定されており、目標を達成するために残された時間は、およそ9年しかありません。

最近では、テレビで特集が組まれたり、学校の授業で紹介されたりと、さまざまな場面でSDGsという言葉に触れる機会が増えていますが、なぜ私たちはSDGsの達成に向けて取り組まなければならないのでしょうか。

その理由は、私たち自身にあります。例えば、私たちの生活に欠かせないスマートフォンは、「レアメタル」と呼ばれる希少金属をはじめ、多くの資源を使って作られています。私たちの生活が便利になる一方で、これらの資源を使い続ければ、いつかは地球上から無

くなってしまいうでしょう。これは果たして「持続可能」と言えるのでしょうか。

本連載では、豊かな亀岡市を未来の世代にバトンタッチしていくために何が必要か、SDGsを通じて考えていきます。

たかぎ こすも
高木 超



▶ 慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 特任助教

1986年東京都生まれ。2012年に神奈川県大和市役所入庁。17年9月に退職し、渡米。UNITARとクレアモント大学院大学が共催する「SDGsと評価に関するリーダーシップ研修」を修了。19年4月から現職。内閣府地域活性化伝道師、亀岡市参与（SDGsアドバイザー）のほか、著書に『SDGs×自治体実践ガイドブック 現場で活かせる知識と手法』（学芸出版社）『まちの未来を描く！自治体のSDGs』（学陽書房）。